

2016年 社長(杉森 務)年頭挨拶について

記者各位

明けましておめでとうございます。

本で行われた、当社社長 杉森 務のグループ社員に向けた年頭挨拶を、以下の通りお知らせいたします。

<要旨>**1. 当社の置かれた現状**

JXグループの設立から6年近くが経過し、新しい社名、社屋のもとで迎える本年は、一つの節目であるとともに、更なる飛躍を期すための大変重要な年である。

我々の事業基盤は、止まらない内需減少によって危機的な状況に置かれている。先般発表した東燃ゼネラルグループとの経営統合は、これを打破するための最善策と確信しているが、経営統合に至るまでの当社の取組みに空白が生じることは許されない。当社単独で取り組むべき課題のうち、急がなければならないのは、収益基盤強化であり、石油化学製品も含めたサプライチェーン全体の一層の競争力強化に努め、コアビジネスである石油精製販売事業の建て直しを図る必要がある。競争力強化の前提として、製油所・製造所の安全・安定操業は欠かせない。製造業としての当社の存立基盤は、安全の確保の上で初めて成り立つとの考えの下、真の「安全文化」を確立・浸透させる必要がある。社員ひとりひとりが基本に立ち返り、真剣に考えて行動してほしい。

2. 成長戦略推進に向けた取組み

我々がめざす「エネルギー変換企業」として、将来の事業の柱になりうるのは、電気・ガス・石炭・水素であり、各事業のステージに応じた着実な育成を図っていく。特に電気事業については、本年4月に家庭用電力小売りが全面自由化され、市場参入による大きな飛躍が期待される。当社は、家庭用電力のブランド名を「ENEOSでんき」と定め、様々な企業と提携を結び、販売代理店となる特約店との連携も図っている。4月から順調なスタートが切れるよう、引き続き万全の体制で準備を進めていく。

海外事業については、既に、潤滑油事業や機能化学品事業を中心として、この数年間で、世界の各地に事業領域を広げており、東南アジアにおいては、石油事業の中流・下流の領域での事業参入についても検討を進めている。今後とも、当社の強みを発揮できる領域でのビジネスを積極的に検討する。

3. 今後目指すべき会社のあり方

本年は、これらの課題に対してしっかりと成果をあげつつ、最大の課題というべき東燃ゼネラルグループとの経営統合に向けた準備を進めていくことになる。様々な経験を経て培った両社グループの叡智を結集し、次の成長に見合った形に昇華させてこそ、強靱な企業集団となり得る。

私がかねてより、目指すべき会社のあり方として、①「機動力のある会社」、②「いきいきとした会社」、③「信頼される会社」、の3つを挙げてきたが、経営統合を決断した今でも、この考えに変わりはない。経営統合を变革の大きな起爆剤として、このような会社の姿を実現したい。

本年も当社を取り巻く環境は厳しいものとなり、対処すべき課題も山積しているが、どんなに環境が変わろうとも、お客様からの信頼が大切であることを忘れてはならない。「安全」と「コンプライアンスの徹底」が最優先であり、我々は、これを土台にしてエネルギーの安定供給という極めて重要な「社会的使命」を担っているということを常に肝に銘じてほしい。

そして、特約店や協力会社との信頼関係を、「対話」を通じて一層強固なものとし、「チームENEOS」の下、一致団結して未来を切り拓いていきたい。

以上